

18. 三戸署における国有林のPRについて（続）

三戸営林署 ○（技）畑 中 辰 己
（技）上 山 秀 則
（事）藤 田 伸 之
（技）田 村 正 義

1 はじめに

当署管内は八戸市及び三戸郡6町4村からなり、国有林は田子町・三戸町・新郷村に所在し、奥羽山系脊梁部の山地と高原に位置していることから、下流市町村の重要な水源地等として大部分が水源かん養保安林等に指定されているとともに、保健休養の場として重要性も増すなど公益的機能の発揮が強く求められているほか、県南地方の安定的な木材の供給源として負うところが非常に大きいものがある。

このように地域社会に貢献している国有林においては、国民の要請に的確にこたえその使命を適切に果たしていくため、とりわけ地域住民の理解と協力が重要であると考えられる。

国有林が所在する町村総人口は、約28千人で、5年前（1986年）と比較して2%程度の微増で推移しているものの、国有林野事業においては、労務の固定化と事業縮減などから、以前のように多くの地元民が国有林で働くという機会がなくなってしまった。

こうした背景から、当管内の国有林と直接係わりのある住民が少なく、また若い世代の山村離れ傾向から、特に市街地の若い世代の中には、営林署が何をするとところか知らない人達が少なくないなど国有林と地域住民との絆が次第にうすらいできた。

一方、森林をレクリエーションの場として利用する人達が、年々増加の傾向にあり、県内外近隣市町村からも多くの人々が管内国有林に入り込んで、森林の恩恵に浴している。

このすばらしい機能をもった森林を先人から受け継ぎ、地域社会の諸要請にこたえながら守り育ててきた営林署の仕事を広く一般に紹介し、国有林野事業に対する理解を得ながら、地域との絆を深めていきたいと考え、日常業務のかたわら職員が創意工夫してP・R活動を展開したので、昨年度の続編として取りまとめ報告する。

2 P・Rの方法及び経過

以下スライドにより説明する。

(1) 昨年度発表のハイライト

- ア 八戸市「みどりの日緑化まつり」に参加
- イ 田子町農業祭に参加し「一畧一品」を展示即売、特に「昆虫シリーズ」が好評
- ウ 三戸町地場産業祭に参加し“軽石盆栽”と“しいたけほだ木”に人気集中
- エ 森林教室を開催し「親子ふれあい遠足」に講師派遣
- オ 開庁100周年記念行事
 - (ア) 「三戸営林署シンボルマーク」の制定
 - (イ) 迷ヶ平自然休養林シンボル標識の設置
 - (ウ) 100周年記念植樹
 - (エ) 100周年記念式典

(2) 当年度のP・R状況

ア 地域のイベントに参加

(ア) 4月29日(みどりの日)

八戸市主催「緑化まつり」に参加し、「一畧一品」で“野草の石付け鉢”ほかの展示即売と「ヒノキ苗木」1,500本を無料配付した。

なお、当日は、初めてのころみとして上北林団全署の共催で、分収育林のP・Rなど会場を盛り上げた。



(写-1) 展示即売風景

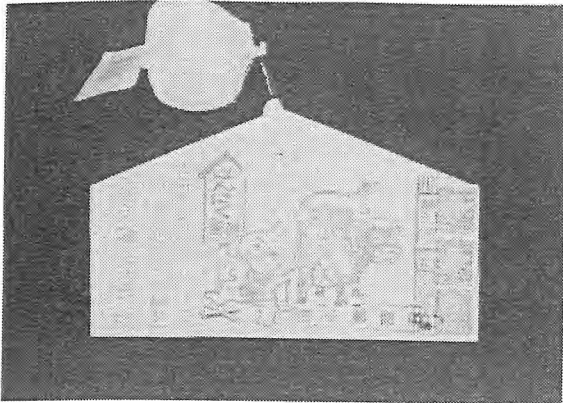
(イ) 9月13～14日

地元田子町主催「にんにくとべこまつり」に参加し、地元の宣伝、活性化に寄与した。

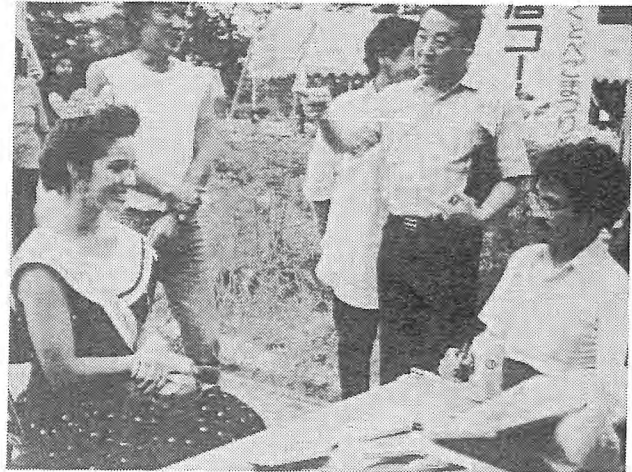
三戸営林署の所在する田子町は「ニンニク」生産日本一を誇る町で、その縁で米国のギルロイ市と姉妹都市を結んでいる。「にんにくとべこまつり」は、同町が毎年行うイベントの一つで、その中で「ニンニク郵便」が大好評だった。

この郵便は、当署勤務の田村正義(共同研究者)氏が、田子郵便局からの依頼で、得意の絵ごころをふるい、絵馬形のスギ間伐材板(20×12cm)にニンニクのキャラクターを図案、印刷したもので、定型外郵便物として、300円で購入送付できる。

また、当日は、同氏が裏面にギルロイ・ガーリック・クイーンの似顔絵を描いたところ、親子連れや若いカップルなどが多数集まり、記念にしたいと申し込みがあるなど、なかなかの賑わいとなった。



(写-2) ニンニクも一緒に送る
「ニンニク郵便」



(写-3) ガーリック・クイーン
の似顔絵を描く田村氏

イ 森林教室

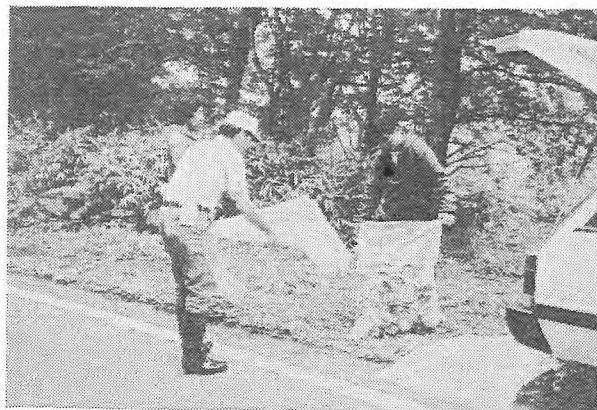
5月22日(5学年61名)

田子小学校PTAが主催した「親子ふれあい学校林炊事遠足」に合わせて、署長を講師として森林教室を開催した。森林の効用の説明や、植樹の指導等を行い感謝される。

ウ 自然休養林でクリーン作戦を展開

7月1日

当署管内「迷ヶ平自然休養林」は、地域住民のレクリエーションの場や地域中高生徒の林間学校等に広く利用されているところでもある。自然休養林が「ゴミの山」では森林の景観を損ね自然環境にも悪影響を与えることになるので職員総動員で管内国有林の公道、



(写-4) 道路脇のゴミを集める職員

林道合わせて総延長130kmの沿線で空き缶等のゴミ拾いを実施した。



(写-5) シンボルマーク付きの名刺と広報

エ シンボルマークの活用

開庁100周年行事に際し制定した当署のシンボルマークを、CI（企業や団体がイメージをリフレッシュして印象づけるためのマーク等）として職員の名刺に印刷し活用している。

また、2年間休刊していた広報「迷ヶ平」を再発行することとし、表紙にシンボルマークを表示し、P・Rに役立てている。（注）CI: Corporate Identity

オ マスコミへの積極的働きかけ

当署では昨年12月12日、冬山の安全祈願式を現地で行った。その際、老朽化が激しい鳥居を、職員手づくりで建替えた。この模様を地元紙に取材要請したが、ほかの行事と競合し取材に出来ないとのことから、当署職員が取材し、写真と一緒に即刻2社に届けたところ、朝刊に掲載された。



(写-6) 掲載された記事

3 考察

国有林を今後一層P・Rしていくために、職員各自が、管林署の看板を背負っているという姿勢を持ち、業務内外の地域とのつきあいの中から、国有林で対応可能なニーズを積極的にくみ取り、すばやく実行していくことが重要であると考えます。

そのためには、①地域の人が署等に気軽に立ち寄りやすいような、明るい職場づくりを推進すること及び②日頃から国有林で何をやっており、何ができるかを示していくことが大事である。